

林学者、香山 玄信圭博士

九州大学文学部 3年生
朱樹彬(ズウ・スビン)

香山 玄信圭(ヒョン・シンギュ)博士とは

1911.12.9~1986.11.21

大韓民国の育種学者

ソウル大学校農科大学において研究を行いつつ、農業振興庁長、育種学会長、農業科学協会長、大韓民国学術院の林学部門元老会員などを務め、同大学名誉教授として奉職。植民地・光復・韓国戦争などの激動のさなかにおいて、林学の基礎を立て、国内としては初めて林木育種学分野を開拓し、基本的な枠組みを樹立。荒廃化されていた山林を緑化するに目覚しい貢献を果たし、鬱蒼とした森林を後世に譲り、2003年大韓民国科学技術院名誉の殿堂が設置される際に初めての献呈対象の一人として選定。



玄博士の前半生

1911年 平安南道安州生まれ
徽文高等普通学校

水原高等農林学校林科を経て

1936年 九州帝国大学林学科
卒(造林学)

1936年 朝鮮総督府林業試験
場で技師として就職

1943年 職を止め、九州帝国大
学に帰り学業に臨む。講義と研究
活動を行う

1946年 太平洋戦争のさなかに
帰国し、ソウル大学校農科大学教
授として着任

1949年 九州大学から農学博士
号を取得(指導教授:佐藤敬二)

1951年 アメリカ国務省の招請
によってアメリカ森林遺伝研究所
及びカリフォルニア大学で林木育
種学を研究。



水原高等農林学校時節の縁：少年玄信圭と鄭熙燮との親交



鄭熙燮
永生高等普通学校出身



玄信圭
徽文高等普通学校出身

玄博士の後半生

- 1951年 帰国後、2年間農業振興庁長として務める
- 1953年 政府補助金でソウル大学校農科大学内に林木育種学研究室を設立
- 1954年 プランス・パリで開催された国際植物協会総会に参席し研究成果を報告
- 1956年 国家機関として林木育種研究所が発足
- 1960年 導入育種研究を通じて、イタリポプラーを国土の土質に適應させた改良ポプラー種子を培養、国土緑化の画期的な切っ掛けとなる
- 1961年 リギテーダ(Rigitaeda)松の種子を作り出し・国土及び世界各地へ普及・反響
- 引き続き銀水原白楊(玄白楊)種子を培養・普及
- 1962年 以上の研究成果がアメリカ上院で報告
- 1967年 農林部傘下の山林局が山林庁と昇格するに主導的役割を果たす
- 1972年 山林庁林木育種研究所顧問
- 1976年 退職後でも名誉教授としてソウル大学校及び林木育種研究所で研究を続ける
- 1986年 享年76歳で京畿道 水原市 自宅で没



第三共和國：朴正熙大統領と一・二次治山緑化10個年計画の樹立



リギテーダ松：奇跡の松

品種間の交配により発生した次の世代を一つの品種として利用する方法を交雑育種と言う。こうした方法は二つの個体が保つ長所だけを結合させる仕組みである。

リギダ(Rigida)松とテーダ(Taeda)松が代表事例である。

リギダ松：瘠地でも良く育ち、寒さや病虫害に対する強い性質

テーダ松：旺盛な生長力と優秀な材質を保つ

両者を結合させ、交雑種リギテーダ松をかいほつ。



樹木英雄、玄信圭博士の主要治績整理

1. 韓国林木育種の科学的研究
基盤を構築
2. リギテーダ松等の種子改良と
韓国及び世界各地への普及
3. 国土山林緑化に対する貢献





ご静聴ありがとうございました。

